



第2号

発行日 2017年 5月 29日

NPO 法人

日本小児がん研究グループ

JCCG 発行

『小児がんの子ども達に勇気・夢そして笑顔を』

JCCG 副理事長 (大阪大学名誉教授) 福澤 正洋

小児がん研究グループ (JCCG) の副理事長を担当している福澤正洋と申します。

水谷修紀理事長を補佐し、小児がんの臨床研究を円滑に行うための運営委員会を担当しています。JCCG が NPO 法人としてスタートして2年余りが経過し、研究をサポートする委員会は順調にその活動を開始しています。ひとえに JCCG の活動をご支援していただいている皆様および支援団体の皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

研究を支援する委員会として、**専門委員会**と**研究管理委員会**とがあります。

専門委員会では、子どものがんについて大人のがんとの違いや特徴に詳しく、治療や診断・調査などの経験豊富な専門家が集まり、よりよい治療方法を検討します。

研究管理委員会は、小児がんの治療研究が倫理的・科学的に正しい手法で行われているかを評価し、アドバイスします。

研究を進める**専門委員会**、その内容をしっかり精査する**研究管理委員会**、2つの委員会を両輪として小児がんの治療は向上していきます。

2012年6月に閣議決定された『がん対策推進基本計画』で、ようやく小児がんが重点課題に取り上げられました。しかしながら国からの支援も十分ではありませんので、研究を支援する委員会活動は、患者さん/ご家族、現場の先生方のご尽力に負うところが多い現状です。

今回は両委員会の役割をご紹介します、今後は活動状況も詳しくお伝えしていく予定です。どうかよろしく願いいたします。



JCCG の専門委員会・研究管理委員会についてご説明します

◆ 9つの専門委員会と役割 ◆

- ① **放射線療法** …… がん放射線を照射する治療が適切かどうか、効果的かつ副作用の少ない線量・回数を検討する。
- ② **画像診断** …… CT・MRI・エコーなどの画像による見立てをもとに、病気の広がり、治療法の効果の度合いを評価する。

◆9つの専門委員会と役割◆

- ③ 外科療法 …………… 治療にどんな外科手術が適切かを判断する。新しい手術法や標準的な手術法を開発する。
- ④ 長期フォローアップ 治療が終了した子どもについて、治療による影響や小児がんそのものの影響などその後の経過を検討し、治ったあとにより良いQOLが保てる治療法の開発につなげる。
- ⑤ 造血細胞移植 …… 造血細胞移植が適切かどうかの判断や安全な移植のためのドナーの選択、移植方法の開発、移植に伴う二次障害の予防法・治療法の開発を目指す。
- ⑥ 病理診断 …………… 小児がんを正しく診断するための組織病理標本の解析法や見方を統一し、施設間での診断の食い違いや誤りを最小限に抑え、治療法の開発に役立てる。
- ⑦ 分子診断 …………… 病理診断と合わせて小児がんを正しく診断するための免疫学的診断や遺伝子診断を開発し、その診断精度を高める。
- ⑧ 支持療法 …………… 治療に伴う感染や臓器障害などの副作用を予防し、早期診断法や治療法を開発。また、がんの痛みの対策や緩和ケアによる小児がん患者のQOLの向上方法を開発する。
- ⑨ 生物統計 …………… 新しい治療法の開発にむけた研究デザインを立案する。研究で得られたデータを統計的に解析し、治療法を科学的に評価する。

※QOLとは→“quality of life”「生活の質」と訳される

◆6つの研究管理委員会と役割◆

- ① 研究審査 …………… JCCGの基礎研究などについて、科学的・倫理的に正しく行われるかをあらかじめ審査する。
- ② プロトコル …… レビュー 臨床研究のプロトコルの内容を科学的・倫理的妥当性の立場から審査する。
- ③ プロトコル …… マニュアル 臨床研究プロトコルを作成するための手順を作る。
- ④ 監査 …………… 治療研究などがプロトコル通りに実施されているか、治療施設が必要な基準を満たしているかを監査。JCCG参加施設の訪問調査も実施。内部監査の役割を果たす。
- ⑤ 早期相試験推進 …… 新薬や海外で使用されている薬剤の国内導入に向けて情報の収集や必要な手続きの支援を行う。
- ⑥ 効果安全性評価 …… 試験中の治療法の効果や安全性について常時情報を収集・評価し、その治療法を継続してもよいかどうかを判断する。

※プロトコルとは→臨床試験の治療計画



小児がんのための新薬開発



JCCG 早期相試験推進委員会委員長 小川 千登世
(国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科 科長)

小児がんの多くは治すことができるものです。しかし、一部には治療抵抗性で、なかなか薬が効かなかつたり、一度消えたように見えて、しばらくするとまた出てきてしまうがんもあります。このような場合、これまでに使っていない薬での治療を行うこととなりますが、大人のがんと違って、子どものがんに使える薬はとても少ないのが実情です。これには、それぞれのがんの患者さんの数が少ないことなどが理由で、薬を使えるようにするための臨床試験である治療が小児がん領域ではこれまでほとんど行われてこなかったという背景があります。また、有効性などの評価も何万人もの患者さんのいる大人のがんと同じ方法での評価は困難でした。

近年、大人のがんに対しては、標的薬や抗体薬など、一部の患者さんには劇的な効果も期待できる薬が次々と開発されています。これらの新薬の一部は小児がんにも効果がある可能性がありますので、どんな薬がどんな特徴を持った小児がんに効くのかを調べる研究も進んできています。また、私たちは、患者さんの数が少ない小児がんに対しても、安全性と有効性を確認する臨床試験や治験を行い、小児がんの効果のある薬を必要な患者さんみんなが使えるようになるよう、小児がんのための薬の開発を行っています。最近では製薬企業での小児がんに対する薬の開発も行われるようになってきました。

日本国内での開発がもっと行われるようになることを目指して、2017年9月30日に、「小児がんにはどんな薬が必要か?」「必要な薬を早く使えるようにするために何が出来るか?」を患者さん・ご家族と医療者だけでなく、薬の開発・製造の関係者や薬事行政にかかわる方にもご参加いただき、意見交換をするシンポジウムを予定しています。必要な薬が一日も早くその薬を必要としている小児がんの患者さんの元に届くように、多くのサポーターの方々からのご支援をお待ちしています。



小児がんに必要な薬を使えるようにするために
(仮題)

日時：2017年9月30日(土)

場所：国立がん研究センター国際交流会館



注目新薬「オブジーボ」を子どもたちにも 国立がん研究センター中央病院にて



「子どものがんには使える薬は少ない」

「一方で大人のがんに対しては劇的な効果が期待できる薬の開発が著しい」

「なんとか小児がんには使える薬の開発を進めたい」

強い思いでJCCGの新薬開発部門・早期相試験推進委員会委員長を務める小川千登世医師。同医師はこのほど、今一部の患者に高い治療効果があることで注目されている「オブジーボ」を子どもの患者に使えるかどうかの臨床試験(医師主導治験)をスタートさせました。国立がん研究センターでチームを組み、取り組んでいます。

オブジーボは免疫の力を使う点が画期的で、大人の皮膚がん・肺がんなどの治療に使われています。今回の小児向けの治験では、小児の悪性固形腫瘍(脳腫瘍を除く)やホジキンリンパ腫などを対象に、小児での投与量、安全性などを調べます。この治療は免疫療法で、まだ安全性を調べる段階であるため、同種造血細胞移植を受けていない方が対象となります。

オブジーボは海外でもまだ子どもへの使用は始まっていない段階です。国内使用への期待は高く、全国の医師、患者さんからも多くの問い合わせがあるそうです。

小川医師は、「子どもの患者さんにこそ、できるだけ体に負担のかからない治療で元気にしてあげたいと思います。そういった意味で使える薬が増えることは大切です。ただ、大人には出ない副作用があったり、治療後の長い人生を考える必要があったり、子どもの治療ならではの慎重さも必要です。長期的な合併症も考えつつ治療を検討していきます」と話しています。

JCCGの早期相試験推進委員会は、小川医師をリーダーに小児がんにも有効な新薬の開発に力を注いでいます。今回のオブジーボだけではなく、小児がんにも有用と期待されるたくさんの薬の治験を計画し、実施しています。今動いているプロジェクトや、今後動き出すプロジェクトにもご期待ください。



プロジェクト はじまります



小児がんと歩む子ども達のために。一緒にたたかう先生のために。
子どもたちの「好き」を応援。まずは「音楽」から♪

白血病、脳腫瘍、リンパ腫などの小児がんは、化学療法や外科的手術、放射線治療などの進歩により、およそ 70% が治るようになりました。一方で、まだ有効な治療が見つからず完治の難しい子どもたちもいます。厳しい状況の子どもたちを助けるには、医師の努力はもちろん多くの方々のご支援が必要です。

JCCG は、救うことが難しい命があることを重く受け止め、「命」「医療」そして昨年脳腫瘍で夭折した少年の遺した「音楽」を柱にした啓発プロジェクトを提案し、もっと我々の活動を知っていただき仲間を増やしていきたいと考えました。

プロジェクト名は「旭(あさひ)くん・光のプロジェクト」。幼少時から作曲の才能を発揮していた加藤旭くんは、脳腫瘍闘病中も「自分の曲が何かに役立つなら」「闘病中の方や、いたたまれない思いをすることもあるご家族の方の心に届きたい」との思いで曲を作りました。彼の思いを受けて JCCG 水谷修紀理事長がプロジェクトを立案し、準備が進んできました。

6 月 18 日(日)16 時～、銀座ヤマハホールでのピアノ・ヴァイオリンコンサートをキックオフに、お子さん向けの演奏会や医療内容の講演会など、草の根的な活動を展開していく予定です。

子どもたちの心豊かで健やかな未来を、医師や音楽家らが本気で目指すプロジェクト、みなさまのご参加とサポートをよろしくお願い申し上げます。



～旭くん・光のプロジェクト発足記念コンサート～
 ジェラルド・プーレ×三谷 温 プラームス/ヴァイオリンソナタ全曲演奏会
 銀座ヤマハホール
 2017 年 6 月 18 日(日) 開演 16:00 (開場 15:30)
 全席自由 5000 円 主催：旭くん・光のプロジェクト
 プレイガイド チケットぴあ <http://t.pia.jp> 【Pコード：324183】
 お問い合わせ：一般社団法人アーツブレッド事務局
 TEL:070-5555-5920 Web site: mit-on.com

小児がんの子どもたちのサポートにご協力ください

いただいたご寄付は、病気を正しく診断する「中央診断システム」の維持や、まだ完治の難しい病気の治療方法確立に向けた研究、治療後の長期フォローアップに使われます。

難しい病気と闘う勇敢な子どもたちに、「治った！」という明るい未来を贈ることが我々の願いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



ご寄付はこちらへお願いいたします

郵便局・ゆうちょ銀行 郵便振り込み
口座記号 00850-5 口座番号 153506
加入者名 NPO JCCG

JCCG HP より、クレジットカード寄付も可能です

<http://jccg.jp>

インターネットでのご寄付

↓

クレジットカードで寄付

◆JCCG の活動情報は以下でも発信しています◆
「友達、スポット等を検索する」に「小児がん研究を応援しよう」
または「friend JCCG」と入力→該当ページへ！

JCCG 事務局 〒464-0075 名古屋市千種区内山 3 丁目 25 番 6 号 千種ターミナルビル 702 号
TEL : 052-734-2182 FAX : 052-734-2183 E-mail : friend@jccg.jp

Special Thanks! イラスト：かとうゆーこ (<http://katoyuko.sakura.ne.jp/>) コピーライティング：石黒 佐和子
光のプロジェクト文字デザイン：有限会社 Sadatomo Kawamura Design

JCCG ニュースレターは、ご寄付をいただいた皆様や以下の支援団体様のご協力のおかげで発行されております

